



## 저작자표시 2.0 대한민국

이용자는 아래의 조건을 따르는 경우에 한하여 자유롭게

- 이 저작물을 복제, 배포, 전송, 전시, 공연 및 방송할 수 있습니다.
- 이차적 저작물을 작성할 수 있습니다.
- 이 저작물을 영리 목적으로 이용할 수 있습니다.

다음과 같은 조건을 따라야 합니다:



저작자표시. 귀하는 원저작자를 표시하여야 합니다.

- 귀하는, 이 저작물의 재이용이나 배포의 경우, 이 저작물에 적용된 이용허락조건을 명확하게 나타내어야 합니다.
- 저작권자로부터 별도의 허가를 받으면 이러한 조건들은 적용되지 않습니다.

저작권법에 따른 이용자의 권리는 위의 내용에 의하여 영향을 받지 않습니다.

이것은 [이용허락규약\(Legal Code\)](#)을 이해하기 쉽게 요약한 것입니다.

[Disclaimer](#) 



碩士學位論文

# 感情の擬態語の意味と用法

— 「怒りの表現」を中心として—

濟州大學校 教育大學院

日語教育專攻

文 公 進

2012年 12月

# 感情の擬態語の意味と用法

— 「怒りの表現」を中心として—

指導教授 李 昌 益

文 公 進

이 論文을 文學 碩士學位 論文으로 提出함

2012年 12月

文 公 進의 文學 碩士學位 論文을 認准함

審査委員長 \_\_\_\_\_ (인)

委 員 \_\_\_\_\_ (인)

委 員 \_\_\_\_\_ (인)

濟州大學校 大學院

2012年 12月



[초록]

감정의 의태어의 의미와 용법  
-[노여움의 표현]을 중심으로-

문공진

제주대학교 교육대학원 일어교육전공  
지도교수 이창익

한국어에 못지않게 일본어도 의태어의 종류가 매우 풍부하다. 그 의태어 중에는 사람의 감정을 나타내는 낱말들도 많다. [희노애락]을 포함한 많은 어휘들 가운데 본고에서는 [노여움]을 나타내는 의태어에 초점을 맞추어서 논지를 전개하도록 했다. [노여움]을 나타내는 표현 뿐만아니라 사람의 감정이나 심리상태가 의태어로 표현되었을 때 일본어를 외국어로 공부하는 이에 있어서 그 의미를 제대로 이해하기는 여간 쉽지 않다.

감정의 표출은 매 개인마다 다르지만 어느 집단 속에서 공동체로서 오랜 기간의 생활양식을 거쳐 길들여지고 사용되어 왔기 때문에 그 감정을 표출하는 행동이나 말의 뜻을 문화적 배경에서 알 수 있게 된다. 예를 들어 감사나 사과의 마음을 나타낼 때 일본사람들은 그야말로 지나치다고 할 정도로 여러 번 [꾸버꾸벅] 절을 한다. 이것이야말로 일본의 문화에 뿌리내린 감사나 사과의 마음을 표현하는 방법이며 그 모습을 [꾸벅꾸벅(ぺこぺこ)] 라는 의태어로 나타내고 있는 것이다.

이렇듯 어느 낱말이든 의태어에 담긴 뜻을 모르는 일본어학습자에게는 이러한 의태어를 이해하기 어렵고 또 제대로 구사하지 못하는 경우가 정정 있다.

본고는 그런 일본어학습자가 의태어를 올바르게 습득하는 데 일조하고자 [노여움]을 나타내는 의태어를 비교 검토했다. [노여움]을 나타내는 의태어는 의성의태어 전문사전인 [현대의음어의태어용법사전]에 수록되어있는 かちん、かつ、かつか、かりかり、かんかん、きつ、けんけん、つけつけ、つん、つんけん、つんつん、ぴりぴ

り、ふいっ、ふっ、ふつつん、ふりふり、ふん、ふんぶん、むかつ、むかむか、むしゃくしゃ、むすっ、むっ、むつつり、むらむら、めらめら、わなわなの 27개를 중심으로 그 의미해석과 용법을 검토하기로 했다.

또한 위 어휘들의 의미해석을 자세히 검토하기 위해 아래의 사전 (広辞苑、角川国語辞典、集英社国語辞典、日本国語大事典、古語大辞典、現代擬音語擬態語用法辞典、類語辞典) 을 참고로 했으며 예문을 인용했을 때는 문장 끝에 (広)와 같이 괄호 안에 해당 사전의 머리글자나 약자로 표기했다.

본고에서는 우선 위 어휘들의 인칭성의 검토 즉 각 의태어를 쓸 때 1인칭으로 쓰이는 가 3인칭으로 쓰이는 가 아니면 1인칭으로도 3인칭으로도 쓰이는 가를 알아보았다.

그 다음에 각 어휘를 쓸 때 남녀 간 성별에 차이의 유무를 검토하고 마지막으로 각 의태어에 담긴 [노여움]의 정도의 강약을 A에서 E까지 분류함으로써 [노여움]을 나타내는 의태어의 적절한 용법을 정리했다.

각 어휘에 대한 고찰과 검토를 거쳐 [노여움]의 정도를 비교 정리한 결과 「かつ」이라는 단어가 가장 [노여움]의 정도가 강하다는 것을 알 수가 있었다.

본고에서 취급한 내용이나 항목이 [노여움]을 나타내는 의태어의 적절한 묘사를 하는데 있어서 외국인 일본어 학습자에게 참고로 되리라고 본다. 또한 의태어의 사용법에 관한 보다 자세한 분석은 외국인 일본어 학습자를 위해서 몹시 중요한 작업이며 앞으로의 과제로서 보다 더 많은 연구가 필요 할 것이다.

## <目次>

I. はじめに	2
II. 人称性による分類	5
2.1. 「三人称のグループ」の各辞典による意味解釈	6
2.1.1. 各語彙の意味解釈と統語的用法	8
2.2. 「一人称のグループ」の各辞典による意味解釈	20
2.2.1. 各語彙の意味解釈と統語的用法	21
2.3. 「併用のグループ」各辞典による意味解釈	24
2.3.1. 各語彙の意味解釈と統語的用法	25
III. ジェンダーの違いによる分類の考察	30
3.1. 「三人称のグループ」におけるジェンダーの考察	30
3.2. 「一人称のグループ」におけるジェンダーの考察	39
3.3. 「併用のグループ」におけるジェンダーの考察	42
IV. 「怒り」の度合いの強さの比較	47
4.1. 「怒り」の強さの度合い(三人称のグループ)	47
4.2. 「怒り」の強さの度合い(一人称のグループ)	49
4.3. 「怒り」の強さの度合い(併用のグループ)	49
4.4. 「怒り」の強さによる分類	50
V. おわりに	52
参考文献	53

## 感情の擬態語の意味と用法

### — 「怒りの表現」を中心として—

#### I. はじめに

韓国語に劣らず日本語は擬態語の種類がとても豊富である。そして、その擬態語には人間の感情を表す言葉も多い。「喜・怒・哀・楽」を含むたくさんの語句を「感情表現」と名付け、その下位分類としては「喜、怒、哀、楽、怖、恥、好、厭、昂、安、驚」などがある<sup>1)</sup>。その「感情表現」のうち、本稿では「怒り」を表す擬態語に焦点を当てて論旨を展開することにする。

「怒り」の表現に限らず人の感情や心理状態が擬態語で表現されたとき、日本語を外国語として学ぶ者にとって、その意味するところを理解するのはとても困難であると思われる。擬態語ではなく、動詞を使って「怒り」を表現した場合、理解がたやすいものもある。一例として、「目を釣り上げる」といった表現などは、「目」という名詞と「釣り上げる」という動きが合わさり視覚的にも意味をとらえることができ、分かりやすいと言える。ところが、「怒り」を擬態語で表現する場合、例えば「彼女はプイッと<sup>2)</sup>出ていった」のような表現となると、それこそ日本人ではない限り、その意味するところをつかみとることはとても難しい。ここで言う「プイッと出ていく」のがどのような状態なのか理解しづらいからである。「プイッと出ていく」は動作の俊敏性を表すのか、もし動作を表すとしたら、どのような動作なのか。または「プイッ」という言葉を「人」と解釈したとしたら「プイッ」という「人」と共に出ていった、と解釈することも可能だからである。ところが、ここにあげた「プイッ」は感情（ここでは怒り）の表出の結果の行動であること、そしてそのように外国人日本語学習者が理解するのはとても困難と言えよう。

感情の表出は、各個人により様々ではあるが、ある集合体の間で共同体として長い間の時間と生活様式を通して培われてき、使われてきたので共通して理解できる部分

1) 兪 暁明 「喜び」を表す擬態語の意味解釈と用法について、2005 『北星学園大学文学部北星論集』42(2)

2) ここでは「プイッ」とカタカナで表記したが、平仮名で表記した場合との意味上の違いは見受けられない。強いて言うならば、視覚的効果があるくらいである。よって、この「プイッ」に限らずこの論文で取り上げる擬態語の平仮名、カタカナ表記の違いは考察の対象としない。また、この「プイッ」は見出し語として、平仮名の「ぷい」や促音を括弧でくくり「ぷい(っ)」、または「ぷいと」と、辞書により表記がまちまちである。このような単語(例えば「かっ」、「むすっ」)の場合、本稿では助詞の「と」を付けて表記する。

が文化的側面からも見受けることができる。例えば、感謝や謝りの気持ちを表す時、日本人が一度ならず、何度もそれこそ「ぺこぺこ」とお辞儀をする場面を目にしたりする。これこそが、まさに日本人の文化に根づいている、感謝や謝りの気持ちの表し方であり、その様子を「ぺこぺこ」という擬態語で表しているのである。

先の「プイッと出ていった」という表現がどうして「怒り」の意味を持つのか。この言葉の背景と意味を知らない日本語学習者は、それゆえに、この擬態語を理解するのが難しく、そのせいで適切な表現ができない場合がままある。

本稿は、そのような日本語学習者が擬態語の正しい用法を身につけるための一助として、「怒り」を表す擬態語<sup>3)</sup>を中心にその意味の解釈と用法を検討することとする。

本稿を執筆するための「怒り」を表す擬態語を抽出するにあたり、擬音語擬態語の専門辞書である「現代擬音語擬態語用法辞典」<sup>4)</sup>に収録されている以下の27の語彙をその検討対象とした。

かちん、かつ、かつか、かりかり、かんかん、きつ、けんけん、つけつけ、つん、つんけん、つんつん、ぴりぴり、ふいっ、ふっ、ふつつん、ぷりぷり、ふん、ふんぷん、むかつ、むかむか、むしゃくしゃ、むすっ、むっ、むつつり、むらむら、めらめら、わなわな。

本稿ではこれらの語彙の人称性の分類、つまり各擬態語が一人称で表現されるのかあるいは、三人称で表現されるのかを検討した。または一人称としても三人称としても併用して表現できるのかも検討した。例えば、「つんとする」という語彙の場合、一人称では「つんと」表現「しない」のである。つまり、「私はつんとした。」という文章は成り立たないので、この「つん」は話者の立場から第三者の状態を表す時に用いられる語彙であるので三人称の表現であるという分類をした。そうすることで各語彙の正しい使用の目安になると思われるからである。人称性の分類を経た語彙を各「一人称」、「三人称」、「併用」のグループに分け、その意味解釈と統語的用法を検証した。

3)但し、「かんかん」や「かりかり」、「ぷりぷり」など一部の「怒り」を表す擬態語には、それ以外の意味と用法がある。詳しくは後述する。

4)飛田良文 浅田秀子 編 『現代擬音語擬態語用法辞典』 平成14年 東京堂出版

本編で取り上げる語彙の意味解釈を詳しく検討するため、以下の辞典（広辞苑、角川国語辞典、集英社国語辞典、日本国語大事典、古語大辞典、現代擬音語擬態語用法辞典、類語辞典）からそれぞれの説明部分を抜き出して表にして記し、比較対照及び論旨を進める上での根拠とした。各語彙に対する各辞書の説明内容が重なる、或いは意味解釈が似通っている部分には表の中で下線部をつけて表した。

各辞書から例文を引用した際には、文末にそれぞれ広辞苑は(広)、角川国語辞典を(角)集英社国語辞典を(集)日本国語大辞典を(国)古語辞典を(古)現代擬態語擬音語辞典を(擬)類語辞典を(類)と各辞書の頭文字を括弧で表記し、その出典を明らかにした。<sup>5)</sup>また、表の中では各辞書を広辞苑、角川、集英社、日本国語、古語、擬態語、類語と略して表記した。

次に各語彙のジェンダーの考察を試みた。

一人称であれ、三人称であれ、擬態語が人の状態や様子を表す品詞である以上、本編で取り上げた各語彙が表そうとする状態の対象にジェンダー、つまり性差があるのかを調べてみた。

先に挙げた「つん」を再び例としてみる。「つんとすます。」とある場合、「すます」という行為が男性にはそぐわないニュアンスがある。それなので、「つんとすます。」にある擬態語の「つん」は女性の状態を表わすときに主に用いられると見なし「女」と分類することにした。分類するにあたっては、各辞書からジェンダーがはっきりしている例文を取り上げ、それに加えて日本の検索エンジンやブログ、ホームページなどに掲載されたり、書き込まれた文章の他、各言葉のイメージを理解する上で参考としてイラストや写真なども挿入した。

ジェンダーの考察を経て、更に、各語彙の「怒り」の表出の強さの度合いを比較することを通して「怒り」の強弱を示すことを検討した。各語彙の「怒り」の強さの度合いをAからEまでランク別に分類することにより、「怒り」を表す擬態語の適切な用法の整理を試みた。

<sup>5)</sup>例文に「多情多恨」〈尾崎紅葉〉のようにあるのは、前者が文学作品の出典を、後者はその著者を指す。また、このような例文はもれなく、「国語大辞典」から、〈伎・韓人漢文手管始・二〉のように〈〉とあるのは「古語大事典」からの抜粋である。

## II. 人称性による分類

本編で取り上げる語彙の意味の解釈と使い方を検討するために表にして「怒り」の表現の人称性による分類を試みた。

つまり、ある語彙が一人称として表されるのかまたは、第三者の状態を三人称で表すのかということである。

例えば、「かっ」という言葉を取り上げる場合、「私はかっとなった」とあるならば、これは「一人称」として表す。というのも、「かっとなった」ことをその話者自身が表現しているからである。

「かんかん」という言葉の場合、「父はかんかんに怒った。」というように第三者の状態を表わし、それを話し手が表現している場合は「三人称」という分類をして使い分け方の検討をした。

また、例えば、「プツン」のような言葉は、「あいつに罵られ、プツンしちゃった。」(一人称)「あいつ、先生に殴られてプツンして、殴り返しちゃった。」(三人称)のように「一人称」としても「三人称」の表現としても使われるので、このような場合は「併用」と記した。

27語を検討した結果、15語が「三人称」、5語が「一人称」、7語が「併用」できる語として分類できた。これをグループ別に表にした。

表1 人称性による分類

三人称	かんかん、きっ、けんけん、つけつけ、つん、つんけん、つんつん、ぴりぴり、ふい、ぷっ、ぷりぷり、ふん、ふんぷん、むすっ、むつつり
一人称	かちん、むかっ、むかむか、むしゃくしゃ、むらむら
併用	かっ、かっか、かりかり、ぷつつん、むっ、めらめら、わなわな

## 2.1. 各辞典による意味解釈

三人称のグループから各語彙の意味解釈と統語的用法の検討を進めることにする。

表 2

	広辞苑	角川	集英社	日本国語	古語	擬態語	類語
かんかん	人が激しているさま。	はげしくいかるようす。	はげしく怒るさま。	強く腹を立てているさま。 はげしく怒るさま。	見出し語なし	非常に怒っている様子を表す。	激しくおこる様子。怒る)
きつと	おごそかなきびしい面持ちになる。	きびしく。厳然と。	怒り・緊張で相手を険しく見据えるさま。	緊張したきびしい顔つきになる。	見出し語なし	瞬間的に態度に緊張が現れる様子を表す。	見出し語なし
けんけん	つっけんどんなさま。無愛想なさま。(つんけん)	見出し語なし	対応が <u>つっけんどん</u> なささま。つんけん。つんつん。	つっけんどんにものを言うさま。とげとげしい態度をするさま。	つっけんどんなささま。とげとげしく。無愛想に。	物の言い方が <u>反抗的で強い</u> 様子を表す。	見出し語なし
つけつけ	無遠慮に突っかかるようにものを言うさま。	無遠慮に、またとがめだてて言うようす。ずけずけ	無遠慮なさま。ずけずけ。	遠慮や加減なしに言うさま、感情を丸出しにして思った通り言い切るさまを表す語。ずけずけ。	無遠慮に物を言う様子を表す。	見出し語なし	見出し語なし
つん	高慢に取りすまして冷淡であるさま。	見出し語なし	取り澄ましてかわいげのないさま。	怒りを含んだり、不きげんであったりして、ぶあいそ <u>う</u> なさま。	見出し語なし	高慢な態度を表す。	見出し語なし
つんけん	不機嫌・無愛想で、 <u>とげとげしく</u> 人と対応するさま。	(俗) つんつん	怒り・不機嫌から、 <u>とげとげしい</u> 言動をとるさま。つんつん。	きげんが悪かったり、言葉つきや態度が、 <u>とげとげしい</u> さまを表す語。つんけんどんなさま。つんつん。	見出し語なし	態度が高慢で物の言い方が <u>反抗的</u> である様子を表す。	見出し語なし
つんつん	態度が高慢であったりして取っつきにくいさま。(つんけん、つんけんどん)	とりすましていて、あいそのないようす。	つんけん。	とりすまして、 <u>あいそ</u> のないさま。つんけん。つんつん。	不機嫌なさま。無愛想なさま	気取ったり高慢に振る舞ったりしている様子を表す。	見出し語なし

	広辞苑	角川	集英社	日本国語	古語	擬態語	類語
ぴりぴり	気持や雰囲気 が異常に緊張 して、いるさ ま。	神経の過敏に なっているよ うす。	神経が過敏に なっているさ ま。	神経を高ぶら せて興奮する さま。	見出し語なし	神経や雰囲気 などが非常に 緊張している 様子。	見出し語なし
ふいつ	とつぜん不機 嫌に立ち去つ たり顔をそむ けたりするさ ま。	急にふきげん な動作をする ようす。	見出し語なし	特に不機嫌に 急に顔をそむ けたり、急に 立ち去ったり するさま。	見出し語なし	主体が不機 嫌・怒りで急 に顔をそむけ る	見出し語なし
ふっ	急にふくらむ さま。また、 むくれるさ ま。	見出し語なし	見出し語なし	ふくれるさ ま、怒って不 愉快な顔つき をするさま。	見出し語なし	主体が不平・ 不満の気持を 持ってふくれ 面をしている 様子を表す。	見出し語なし
ふりふり	不機嫌で取り つくしまのな いさま。	見出し語なし	ひどく怒って 機嫌が悪いよ うす。ぶりぶ り。	はなはだしく 機嫌の悪いさ ま。	怒っているさ ま。	非常に憤慨し て、頬をふく らませて怒り を表している 様子を表す。	見出し語なし
ふん	腹を立ててふ くれるさま。	怒ってふくれ るようす。	怒って膨れる 様子。	ふくれっ面を して黙ってし まうさま。	見出し語なし	怒ってふくれ る様子を表 す。	ひどくおこ こって、とり つくしまのな い様子。(ふ くれる)
ふんふん	ひどく腹を立 てているさ ま。	腹をたてるよ うす。不平な ようす。	腹を立ててい るさま。	ひどく腹を立 てて口をきか ないさま。	見出し語なし	怒ってふくれ ている様子を 表す。	ひどく腹を立 てて不機嫌な 様子。(怒 る)
むすっ	機嫌悪く不満 そうに黙りこ んでいるさ ま。	見出し語なし	見出し語なし	見出し語なし	見出し語なし	頬をふくらま せて沈黙する 様子を表す。	見出し語なし
むつつり	口数が少なく 無愛想な表情 であるさま。	口数が少ない ようす。ぶあ いそう。	黙りこくって 口数少なく、 無愛想なさ ま。	おし黙って愛 想のないさ ま。	見出し語なし	寡黙である様 子を表す。	見出し語なし

## 2.1.1 各語彙の意味解釈と統語的用法

### 2.1.1.1 「かんかん」

#### 意味と統語的用法

各辞典の解釈は共通して強く腹を立てて、怒っている様子を表す。

- (1) 「大阪の宿」〈水上瀧太郎〉一・六「養父の院長がかんかんに怒ってしまったので、とうとう病院を飛び出してしまった。」(古)
- (2) 「カンニングを知って先生はかんかんになった。」(擬)
- (3) 「妹が門限を破ったので、父はかんかんだ。」(類)

(1)は「に」が付いて、述語にかかる修飾語になる。

(2)は「になる」が、(3)は「だ」が付いて述語になる。

「かんかん」という擬態語には「踏み切りの警報器がかんかんと鳴っている」のように音を表す場合や「太陽が朝からかんかん照りつける」のように太陽や火などの勢いが盛んである様子を表す意味の説明がされている。6)「火などの勢いが盛んであるさま」とあるように「炭がかんかんおこっている」という状態もある。一見すると「炭」という存在が「怒り」を表しているようにも見えるが、このような場合、「炭」という存在を「擬人化」したシチュエーションならば、「炭」が「怒っている」と考えても良いが、そうでない場合は、やはり、先の「火などの勢いが盛んであるさま」と捉えるべきである。また、「炭がかんかんにおこっている」という場合の「おこる」の漢字は「熾る」7)となるので、この部分を漢字で見ると「怒り」の表現ではないのが分かる。そうならば、この「かんかん」という単語から「怒り」の意味を汲み取るにはこの単語の主語に注意する必要がある。というのも、当たり前のことだが、ここで取り扱う「怒り」を表すのは専ら人間に限っているからである。よって、例文のように人が主語になるとき、この「かんかん」という擬態語は「怒り」を表すということが言える。

6)現代擬音語擬態語用法辞典 p74 参照

7)ヤフージャパン「知恵袋」[http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1376799173](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1376799173)

### 2.1.1.2 「きっと」

#### 意味と統語的用法

この語彙は瞬間的に表情に厳しい緊張が現れる様子を表す。

(4) 「その子は母親をきっとにらんだ。」(擬)

(5) 「きっとなって反論する」(角)<sup>8)</sup>

(4)は「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

(5)は「となる」がついて述語になる。

「きっと」は、コトに対する話し手の強い確信や期待を表すものだが、推量の意味をも含むものである。「きっと」はなんらかの意味で推量の意を帯び得る文末としか共起しない。「あの人きっと間違っていない」にしても、文末は断言的だけれど、そこには「と思う」といった推量が入る<sup>9)</sup>。つまり、推量の意味が強く、間違いなくそうなると判断する話し手の主観的な判断を表わす時に使われる蓋然性を表し、かつ、話者の高い確信を表す副詞群として分類されている。なので、この「きっと」という単語の「怒り」の要素は、「態度や表情に厳しい緊張が現れる」のと、例文にもあるように「にらむ」とか「目付き」、「見据える」という目の表情やそれを描写する語を伴って初めて、汲み取ることができる。というのも、もともとこの「きっと」は、「きっとなってにらみつける」という歌舞伎の演技の用語として台本のト書中に用いた。歌舞伎役者が見栄を切るときに厳しい表情でにらむ場面で使われたのが一般化したものと見える<sup>10)</sup>。

8)例文には、一見「目の表情やそれを描写する語を伴って」いないが、ここでは「反論した」という述語にかかる「きっとなって」の部分に「厳しい緊張」が読みとれる。

9)小林典子(1992)「『必ず・確かに・確か・きっと・ぜひ』の意味分析」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』7:1-17、筑波大学留学生センター p132 参照

10)goo辞書：<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/52960/m0u/>

### 2.1.1.3 「けんけん」

#### 意味と統語的用法

辞書の説明では、つっけんどんで物の言い方がとげとげしいさまを表すとある。

- (6) 「そんなにけんけん物を言うなよ」(擬)
- (7) 「受付の女の子にけんけんした言い方をされた。」(擬)

(6)は単独で述語にかかる修飾語になる。

(7)は「した」が付いて、名詞にかかる修飾語になる。

この単語を単独で「けんけんする」と聞いた場合は、片足でびよんびよん飛び跳ねる動作を思い浮かべることが圧倒的である<sup>11)</sup>。しかし、この言葉が「怒り」を表すには、各辞書の説明<sup>12)</sup>にあるように「つっけんどん」な言動に関する描写がなされたときだけである。

### 2.1.1.4 「つけつけ」<sup>13)</sup>

#### 意味と統語的用法

各辞書ともこの「つけつけ」という語彙は無遠慮に物を言う様子を表す。

- (8) 浄、妹背山「またつけつけと何言ひをる。」(広)
- (9) 「彼女は年下の相手にはつけつけ物を言う。」(擬)

(8)、(9)は単独でまたは「と」が付いて、「言う」などの述語にかかる修飾語になる。

---

11)goo辞書：<http://dictionary.goo.ne.jp/srch/all/%e3%81%91%e3%82%93%e3%81%91%e3%82%93/m0u/>には「けんけん」という見出し語は、けん けん 1 片足でびよんびよん跳ぶこと。片足跳び。 2 相撲の、掛け投げの俗称。けん けん【件件】 あの特、この特。あのこと、このこと。条々。けん けん【媚媚】 [形動タリ] 1 美しいさま。清らかなさま。けん けん【拳拳】 [形動タリ] 1 捧げ持つさま。固く握って離さないさま。 2 つつしむさま。などとあり、本論で取り上げる「怒り」の意味はみあたらない。

12)「現代擬態語擬音語辞典」には「物の言い方が反抗的で強い様子」とあるが、「つっけんどん」が「態度や言葉遣いがとげとげしく愛想のないさま。」(三省堂 大辞林)とあるので、両者の意味は相手を不機嫌にするネガティブな要素を持つ言動をするという点で共通すると見る。

13)角川、集英社、日本国語大辞典の三つは「つけつけ」の説明に、本論では取り上げなかった「ずけずけ」という語彙と同意であるとしている。

検索エンジンではここで取り上げた「怒り」の表出という側面よりも、「つける」という動詞を重複させることによって、その行為を強調したり、ギャグ化したりする用法が多く見られる。例えば、下の写真1や写真2のようにである。



写真1:つけつけしてウマーっ♪



写真2:辛つけつけ麺+麺100g

「つけつけ」という言葉から「怒り」を汲み取るためには、やはり、物を言う行為を伴った状況であることが必要である。

#### 2.1.1.5 「つん（と）」

##### 意味と統語的用法

「日本国語大辞典」<sup>14)</sup>の他はおおまかにおいて、この「つん」という語彙を高慢で取り澄ました態度を表すと説明している。

(10) 「つんと横を向く。」(広)

(11) 随筆・用捨箱一中八「物を聞き入れぬさまして、余所（ことかた）などを見る者 つんとして居るといふ」(国)

(10)は「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

(11)は「して（い）る」が付いて述語になる。

「つん（と）」は「つんとくる匂い。」のようにわさびなどによって強く感じる刺激を表す言葉であり、「雑草がつんとのびた。」のような、物事が尖って鋭い状態を表す擬

14) 「日本国語大辞典」の解釈は、「怒りを含んだり、不きげんであったりして、ぶあいそうなさま」と唯一「怒り」の感情を説明している。また、他の辞書が「高慢で取り澄ました」という部分は「とりすまして無愛想なさま」と「大辞林」(第三版)にも出ているので、意味上に大きな差異はないと見える。

態語である「怒り」を表すには統語的用法上、「して(い)る」が付いて述語になる<sup>15)</sup>のだが、「つんとしている」の形からは「怒り」を感情を導き出すことはできない。何故なら「泣きそうな感じになると、鼻の頭(の中)が「つん」とするのはなぜですか?」<sup>16)</sup>ということもあるからである。「鼻の奥がつんとした」の場合、主体が外部から何らかの刺激を受け、それに反応した自身の様子を描写していて、この部分に語彙解釈にある「高慢で取り澄ました様子」という表現の要素は見あたらない。テレビや映画などを見て、感情を抑えながら涙を流す人がいるが<sup>17)</sup>、その人たちの様子が「高慢で取り澄ました」様子であるはずないことは、誰でも分かるであろう。それでは、どのように「怒り」の感情を「つんとしている」という表現から読み取るか。それは「つんとしている」人を第三者が見て評しているかということである。上記の例文のように、(10)「つんと横を向く。」(11)随筆・用捨箱—中八「物を聞き入れぬさまして、余所(ことかた)などを見る者を、つんとして居るといふ」と第三者の状態を評すときにこの「つんとする」は「怒り」の感情を表すと言える。

#### 2.1.1.6 「つんけん」

##### 意味と統語的用法

各辞書とこの語彙は不機嫌で物の言い方がとげとげしい様子を表すと説明している。

(12)「そんなにつんけん当たるなよ。」(擬)

(13)「妻は朝からつんけんしている。」(擬)

(14)「つんけんした対応」(角)

(12)は単独で述語にかかる修飾語になる。

(13)は「している」が付いて述語になる。

(14)「した」または「とした」が付いて名詞にかかる修飾語になる。

「つんけん」は「つんつん」や「けんけん」似ている。「つんつん」は「つんつんし

15)現代擬態語擬音語辞典 p307 参照

16)ライブドアナレッジ：<http://knowledge.livedoor.com/47962>

17)テレビや映画のある場面を見て涙の流しようは、勿論、人それぞれだが、ここでは、「つんと」という意味に限ってのことである。

ていてろくに返事もしない。」<sup>18)</sup>とあるように、主に態度で相手に自分の感情を示すのに対し、「つんけん」は「わざとなのか、無意識なのか、割とつんけんとした物言いをする友人がいます。」<sup>19)</sup>のように物の言い方について用いる<sup>20)</sup>場合が多い。

### 2.1.1.7 「つんつん」

#### 意味と統語的用法

各辞書の説明で「つんつん」は態度が高慢で、不機嫌、無愛想な様子を表している。また、「広辞苑」、「集英社国語辞典」、「日本国語大辞典」の三つが「つんつん」の項に「つんけん」とあることから、これらの語彙は、意味的に似ていると判断してよからう。

(15) 「デートをすっぽかしたら、彼女は急につんつんするようになった。」(擬)

(16) 「恵子はつんつんしていて挨拶一つしない。」(擬)

(17) 「つんつんした応対。」(広)

(15)、(16)は「する」、「している」が付いて述語になることが多い。

(17) 「した」が付いて、名詞にかかる修飾語になる。

「つんつん」は「つん」の連続形または強調形である<sup>21)</sup>。ところがこの「つんつん」という擬態語には、「指や棒などで恐る恐る対象に触れる行為<sup>22)</sup>」を示すことがあるので注意が必要である。例えば下の写真3がそうである。



写真3: (・ω・) つんつん

18) デジタル大辞泉：kotobank.jp/word

19) <http://ameblo.jp/felizkohaku/entry-11381385259.html>

20) 現代擬態語擬音語辞典 p308 参照

21) 現代擬態語擬音語辞典 p309 参照

22) ニコニコ大百科： <http://dic.nicovideo.jp/a/%E3%81%A4%E3%82%93>

### 2.1.1.8 「ぴりぴり」

#### 意味と統語的用法

各辞書とも神経や雰囲気などが非常に緊張している様子として説明している。

(18) 「両首脳とも神経をぴりぴりさせていた。」(擬)

(19) 「決勝前のぴりぴりした緊張感が会場を包んだ。」(擬)

(20) 「猛稽古の気合いが空気をぴりぴり震わせた。」(擬)

(18)は「する(させる)」が付いて述語になる。

(19)は「した」が付いて、名詞にかかる修飾語になる。

(20)は単独でまたは「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

この単語の第一義的な意味は「皮膚や粘膜に痛いほどの鋭い刺激を感じるさま」である。例文としては「辛くて口の中がぴりぴりする<sup>23)</sup>」などがある。また、紙や布を裂くときの音を表す「ピリピリ」や笛やその類いの楽器などから出る音の「ピリピリ」という擬態語がある。ここで取り上げている「ぴりぴり」は、体の一部が感じる刺激とか音の描写とは違い、端から見ても分かる、或いは周囲にも伝わるほどの神経過敏な様子や緊張した雰囲気のことである。

### 2.1.1.9 「ふいっ (と) 」

#### 意味と統語的用法

各辞書において、不機嫌・怒りで急に顔をそむけたり出ていったりする動作として説明している。

(21) 「奴は何が不満なのか、ふいと出ていったきりだ。」(擬)

(22) 「おやに意見されふいとそっぽを向いた。」(類)

(21)は「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

(22)は「と」が付いて名詞にかかる修飾語になる。

23)デジタル大辞泉：kotobank.jp/word

「ぷいっ (と)」には「彼氏とケンカやいざこざ。その場にいるのが堪えられなくて、ぷいっと部屋を飛び出してしまおう。」<sup>24)</sup>や「女の子が「もう知らない！」ってぷいっと向こう向いちゃった」<sup>25)</sup>などのように不機嫌・怒りで急に顔をそむけたり、その場を立ち去ったりする動作に勢いが感じられる表現である。「ぷいっ (と)」は「ぷっと」や「ぷんと」に似ているが、「ぷっと」や「ぷんと」は後述するように「怒り」の表現が主に顔を膨らませる表情の様子に焦点を合わせており、「ぷいっ (と)」の場合のように、その場を立ち去るほどの勢いのある動作を描写するものではない。

#### 2.1.1.10 「ぷっと」

##### 意味と統語的用法

各辞書とも共通して怒りや機嫌が悪く急にむくれるさま、脹れっ面をする様子を説明している。

(23) 「子供は怒られてぷっと頬をふくらませた。」(擬)

(24) 「ぷっとふくれて黙り込んだ。」(類)

(23)、(24)は「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

「ぷっと」は「ブドウの種をぷっと吐き出す」先をすぼめて息などを一瞬吐き出すさまや「おかしくてぷっと吹き出す」のように思わず笑いだすさまを表す意味に加えて、「怒られてふくれる」、ふてくされるさまという意味がある<sup>26)</sup>。「笑う」という意味と「怒る」という意味の二つの相反する概念を表すのである。そのせいで「ぷっと」という言葉を単独で見ると、どちらの意味なのか見分けがつかなくなったり、或いは混乱しやすい。しかし、注意深くみると、「怒り」を表す「ぷっと」という表現には「ぷっと」に続けてその感情の表れとして「ふくれる」という表情を表す言葉が付いているのが普通である。例文を見ると、理解しやすいだろう。

24)<http://chako916.blog.fc2.com/blog-entry-101.html>。

25)[https://mobile.twitter.com/1000favs\\_/status/230435183449497601](https://mobile.twitter.com/1000favs_/status/230435183449497601)

26)デジタル大辞泉：kotobank.jp/word

### 2.1.1.11 「ぷりぷり」

#### 意味と統語的用法

各辞書の説明は非常に憤慨して機嫌の悪いさま、とある。

(25) 「ぷりぷり怒って帰る。」(広)

(26) 「約束をすっぽかすなんて最低だわ」と彼女はぷりぷりだった。(擬)

(27) 「社長は会議で黙殺されてぷりぷりしていた。」(擬)

(25)は単独または「と」が付いて、述語かかる修飾語になる。

(26)は「だ」がついて述語になる。

(27)は「している」が付いて述語になる。

「ぷりぷり」には、食品などの歯ごたえや舌触りに適度な弾力性があること。「プリプリの海老」などという具合に使われる。また、特に女性のお尻について、形が良く適度な張りがあること。「プリプリのお尻」などという具合に使われ、材質や筋肉などの組織に硬い弾力があって弾ける様子を表す<sup>27)</sup>意味もある。例えば「あの子はぷりぷりしている」とある場合、この文章の意味するところが「筋肉などの組織に硬い弾力があって弾ける様子を表す」のか「非常に憤慨して機嫌の悪いさまを表す」のかは、まるで区別が付かないと言えよう。特にこの「ぷりぷり」という単語に「怒り」を表す意味があるということが分からないとしたら、日本語学習者にこの文の真意をつかむことはほとんど無理ではなかろうか。そこで、「ぷりぷり」から「怒り」の感情を汲み取るには、例文のように「ぷりぷり怒って」とか「ぷりぷりと機嫌を悪くして」のように「ぷりぷり」に続いてくる「怒り」の状態から判断するか、または、例文(27)「社長は会議で黙殺されてぷりぷりしていた。」のように「ぷりぷり」する原因が「黙殺される」という否定的なイメージに端を発していることを感じ取り、その否定的なイメージに続いた「ぷりぷり」という状態も決して肯定的な意味ではない、ということから「怒り」の感情を推察すると分かりやすいであろう。

### 2.1.1.12 「ぷん(と)」

#### 意味と統語的用法

各辞書において(ひどく)腹を立ててふくれるさま、という説明が付いている。

<sup>27)</sup> 実用日本語表現辞典：<http://www.weblio.jp/content/%E3%81%B7%E3%82%8A%E3%81%B7%E3%82%8A>

(28) 「ぷんとふくれる」(角)

(29) 「家元はいつもぷんとした表情をしている。」(擬)

(28)は「と」が付いて、述語にかかる修飾語になる。

(29)は「とした」が付いて名詞にかかる修飾語になる。

「ぷん(と)」にも「つんと」のように「怒り」を表わす表現の他に「ぷんといやなにおいがする」、「味噌(みそ)の香りがぷんとあたりにたちこめる<sup>28)</sup>」という「臭い」を感じたときに使われる擬態語がある。そして、臭いに関する「ぷん(と)」と「つんと」の違いは、「ぷん(と)」は瞬間的に、においが強くするさまを表わすときに、「つんと」は、酢や玉ねぎのような鼻にくる刺激的なにおいがするさまを表わすときに使われる<sup>29)</sup>。この「ぷん(と)」が「怒り」を表現するときは、例文のように「怒り」や「不機嫌」なために顔をふくらませて、違う方向を向いたりする動作を伴うことが普通である。

「ぷん(と)」は「ぷいっと」に似ているが、「ぷん(と)」は主体が怒ってふくれている様子を表わし、「ぷいっと」のように顔をそむけるとは限らない<sup>30)</sup>。

### 2.1.1.13 「ぶんぶん」

#### 意味と統語的用法

各辞書にひどく腹を立ててふくれている様子を表すとある。

(30) 「車内にまる一日缶詰にされた乗客はブンブン。」(擬)

(31) 「やつ、何が気に入らないんだか、ブンブン怒って行っちゃったよ。」(擬)

(30)は単独で述語になる。

(31)は単独で述語にかかる修飾語になる。

「ぶんぶん」は「ぶん」の連続・状態形であるので、当然、「臭い」に関する説明がある。そして、それは「ぶん」で感じたよりも強いにおいがしきりに鼻をつくさまを

28)goo辞書：<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/thsrs/1066/m0u/>

29)goo辞書：<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/thsrs/1066/m0u/>

30)現代擬態語擬音語辞典 p479 参照

表わす。また、「犯罪のにおいがぷんぷん (と) する」というように比喩的にも用いる<sup>31)</sup>。

#### 2.1.1.14 「むすっ」

##### 意味と統語的用法

辞書の説明は、機嫌悪く不満そうに黙りこんでいるさまとある。

(32) 「初めはむすっとしていた会長も、若手社員の熱意に次第に表情が和んだ。」(擬)

(33) 「話が補償のことに及ぶや担当者はむすっと黙ってしまった。」(擬)

(32)は「とし (てい) た」の形で名詞にかかる修飾語になる。

(33)は「むすっ」との形で述語にかかる修飾語になる。

「むすっ」は他人が機嫌悪く不満そうに黙りこんでいるさまを表すと辞書の説明にあるのだが、「デート中、むすっとしている男性は女性からは不評です。何を考えているのか、わからないからです。」<sup>32)</sup>という例文の中の男性は必ずしも辞書の説明のように「機嫌悪く不満そうに黙りこんでいる」とは限らないのではなかろうか。ただ単に真顔で口数が少ないがためにマイナスイメージに取られたと思われる。次の例文もそのような傾向が見える。「上司からは怒ってる？顔がムスッとしていると言われることが良くあります。私は怒っていないし、真面目に仕事をしていただけです。」<sup>33)</sup>真剣に仕事に取り組む姿が上司には「むすっ」として怒っているように見えるのである。上の例文からも分かるように、当人は必ずしもそうではないのに他人から「むすっ」として怒っていたり、不機嫌そうで何を考えているのか分からないと見られる。つまり、「むすっ」とには例文(32)や(33)のように端から見て明らかに不機嫌な様子を描写することもあるが、当人には「怒り」や「不満」などという感情がなくても、第三者の見方によっては口数少なく黙っているというだけで、マイナスイメージに映り、誤解されることもあり得るという点は、この語彙を使う上で注意すべきであろう。

31) デジタル大辞泉：kotobank.jp/word/

32) <http://www.happy lifestyle.com/9453>

33) <http://onayamifree.com/threadres/1311640/>

### 2.1.1.15 「むっつり」

#### 意味と統語的用法

各辞書とも、口数が少なく無愛想な表情であるさまという説明である。

(34) 「初めはむっつり (と) していた部長も、酒がまわると饒舌になってきた。」(擬)

(35) 「夫は息子に反抗されてむっつり (と) 黙った。」(擬)

(34)は「とした」または「としていた」が付いて名詞にかかる修飾語になる。

(35)は単独でまたは「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

「むすっ」と「むっつり」とは辞書の解釈にもあるように本来、口数が少なく、無愛想な人を意味する言葉で意味的には似ている。そして、日常ではこの「むっつり」とスケベを合わせた『むっつりスケベ』という言葉がよく使われる。下の写真<sup>34)</sup>(むっつり助兵衛：無口で多分イヤらしいことを考えているのに違いない)にあるように若者が日常生活の会話の中で使う「むっつり」の多くは、この『むっつりスケベ』の略であることが多い。つまり、「むっつりスケベ」とは同世代のおとなしそうな男子をからかう他、スケベ心を隠しているだけで本性はスケベなことを考えていそうな大人を嘲う際にも使われることもある。<sup>35)</sup>



写真4

34) <http://image.search.yahoo.co.jp/search?p=%E3%82%80%E3%81%A3%E3%81%A4%E3%82%8A&aq=-1&oq=&ei=UTF-8>

35) <http://zokugo-dict.com/33mu/mutturi.htm>

## 2.2. 各辞典による意味解釈

次に一人称のグループの語彙について見てみることにする。

表 3

	広辞苑	角川	集英社	日本国語	古語	擬態語	類語
かちん	相手の言動が自分の感情を強く刺激し、不愉快に思う。	見出し語なし	相手の言動が <u>気に障る</u> 。	相手の言動が自分の気持ちを鋭く突きささるよう感じられて、非常に不愉快に思うさま。	見出し語なし	相手の言動に対し急激に怒りを覚えるという意味	相手の自分に対する言動が不愉快で、(急に)怒る。
むかつ	体の内から怒りや吐き気が突然にこみ上げてくるさま。	いかりがわいてくるようす。	急激に腹が立つさま。	怒りが急激にこみ上げてくるさまを表す語。むかど。	腹の立つさま。むかつと	吐気をもよおすほど激しい怒りを表す。	急にいかりがこみあげてくる様子。(腹を立てる)
むかむか	こみ上げてくるような怒り・不快感を覚えるさま。	腹をたてるようす。	怒りがこみあげるさま。	怒りが急激にこみあげてくるさま。	腹を立てるさま。むかつくさま。	吐き気をもよおすほど怒りを覚える場合	いかりや不快感がこみあげてくる様子。
むしゃくしゃ	腹が立って平静でいられないさま。	腹がたつて、たえがたいようす。	腹立たしくいらいらして、気分がすっきりしないさま。	いらいらしたり腹が立ったりするさま。	心の晴れないさま。腹立たしいさま。	漠然と不快や怒りを感じる様子。	見出し語なし
むらむら	強い感情や衝動が急にわき起るさま。	急に(悪い)心が動くようす。	急に感情が込み上げてくるさま。	急に怒りがこみあげるさま。	見出し語なし	闘志・怒り・意欲・性欲などの激しい欲求が次々とわき起る様子。	見出し語なし

## 2.2.1. 各語彙の意味解釈と統語的用法

### 2.2.1.1 「かちん」

#### 意味と統語的用法

各辞書とも、相手の言動が自分の感情を刺激して不愉快になる、という解釈である。

(36) 「遅いと言われてかちんと来る。」(集)

(37) 「あの女の、人をばかにしたような態度にかちんときた。」(類)

(36)、(37)とも「かちんとくる」のかたちで述語になる。

「かちん」の第一義的な意味は「金属質の硬くて小さいものが一度強く衝突して起こる音や様子」を表わす<sup>36)</sup>。この言葉が「怒り」を表わすのは例文のように「かちんとくる」という形の場合である。

### 2.2.1.2 「むかつ」

#### 意味と統語的用法

各辞書とも、体の中から怒りが急に込み上げてくるさまや瞬間的に吐気をもよおすさまと、説明している。

(38) 「むかっとくるのをぐっと抑える。」(広)

(39) 「むかっとした表情。」(集)

(40) 「むかっぱらを立てなくてもいいじゃないか。」(擬)

(41)(子供が若い女性に)「おばちゃん、それちょうだい。」、

「なに、このガキ、ムカツく」(擬)

(42) 「あの先公、チョむかだね<sup>37)</sup>。」(擬)

(38)、(39)は「むかっとする、くる」の形で述語になる。

(40) 「むかつ腹」の形で名詞を作る。

(41) 「むかつく」の形で動詞を作る。

(42) 「チョむか」(超むかつくの略)の形で名詞を作る。

36) 現代擬態語擬音語辞典 p50 参照

37) 超むかつくの略とある超とは、若者間で「とても」などの程度を表わす副詞の俗な表現である。

「むかつ」は「急に怒りが込み上げてくる」意味として使われることが一般的であるが、辞書の説明にある「瞬間的に吐気をもよおす」時にも使われる。そして、吐気をもよおす肉体的変化を言い表す場合は、「(つわりで)ムカッとしてトイレに駆け込んだ」のようにトイレ(吐く場所)や「駆け込む」(吐こうとする瞬時の動作など)という描写を伴うことになる。それ以外の「ムカッとする」、「むかつときた」という場合は「怒り」を表わしていると受け取っても差し支えないと言えよう。

### 2.2.1.3 「むかむか」

#### 意味と統語的用法

各辞書とも、こみ上げてくるような怒り・不快感を覚えるさまと説明している。

(43) 「親の言葉にむかむかつときて思わず拳を握った。」(擬)

「ふてぶてしい態度にむかむかする。」(広)

(44) 「本当は途中あたりから、胃の辺りがむかむかして、画面を思いっきりぶん殴ってやろうかと思ったほどです。38)」

(43)は「とくる」が付いて述語になる。

(44)は「する」が付いて述語になる。

「むかむか」は「むかつ」の連続・状態形で「むかつ」の勢いを加味した表現であり<sup>39)</sup>、主体内部の感覚について用い、第三者の様子については用いない。この言葉にも「むかつ」と同様に「吐気をもよおす」という状態を表現するときに用いられる。「吐気をもよおす」時は、「むかむかする、むかむかくる」となる。「むかむかする」原因を文章や文脈の中から「怒り」なのか「吐気」なのかを区別する必要がある。「飲みすぎてむかむかする」とか「油っぽいのを食べて胃がむかむかする」するという場合は、明らかに「吐気をもよおす」表現である。

38) ブログ: <http://ameblo.jp/proud-taitania/entry-11140815593.html> この例文は検索エンジンから抜き出したものだが、「吐気をもよおすほど激しい怒りを表わす」という「現代擬態語擬音語辞典」の説明を如実に表わしている例だと言える。「吐気をもよおすほど」は「胃の辺りがむかむかして」となり、「激しい怒り」は「思いっきりぶん殴ってやろうか」と置き換えると分かりやすい。

39) 現代擬態語擬音語辞典 p591 参照



らむら」という言葉から「怒り」の感情を読み取るには、例文のように文中または脈略から「怒りが込み上げる」のような記述がある場合に「怒り」の表現として取り上げられるものと思われる。

### 2.3. 各辞典による意味解釈

ここでは併用できるグループの語彙を検討して見てみる。

表4

	広辞苑	角川	集英社	日本国語	古語	擬態語	類語
かつと	急に怒ったりのぼせたりするさま。	急に怒ったりのぼせたりするようす。	急に怒り、のぼせるさま。	怒って逆上したり、恥じたりして、顔に急に血の上るさま。	急に感情が高ぶるさま、怒りがこみ上げるさま。	相手の言動に対し急激に怒りを覚えるという意味。	突然いかりを覚える様子（腹を立てる）
かつか	怒りで興奮するさま。	感情が高まるようす。のぼせあがるようす。	【俗】怒りや不満などで冷静を欠くさま。	怒りや不満などで興奮するさま。	息を激しくつくと様子。怒り立つ様子。	怒りのために熱くなっている状態を表す。	激しくおこって興奮する様子。（怒る）
かりかり	俗に神経がいら立っているさま。	見出し語なし	神経がいらだっているさま。	見出し語なし	見出し語なし	神経が高ぶって怒りやすい状態になっている様子を表す。	見出し語なし
ぶつつん	我慢の限界を超え、自制心を失うこと。また、正確な判断ができなくなること。	見出し語なし	見出し語なし	見出し語なし	見出し語なし	我慢や抑制が突然きかなくなって感情的・衝動的な行動に走る様子。	切れる。（糸などが切れる音・様子から）（怒る）
むっ	込上げてくる怒りを不機嫌そうに抑え込んでいるさま。	急におこってだまるよう。心中でおこるようす。	突然感じる怒りや不快感を表情にあらわにしたさま。	怒りや不機嫌さを感じるさま、また、その表情をあらわにするさま。	見出し語なし	不快や怒りで唇を一瞬強く結ぶ様子。	見出し語なし
めらめら	比喩的に、胸に強い感情や衝動が生まれるさま。	ほのおを出して燃えるようす。	怒りの見出し語なし	怒りの見出し語なし	見出し語なし	比喩的に情熱・怒りなどが激しくわき起こる場合。	見出し語なし
わなわな	恐怖・興奮・寒さなどのためにわななき震えるさま。	怒り・おそれ・寒さなどでわななきふるえるようす。	恐怖や怒りなどで体が震えるさま。	寒さや恐怖、怒り、興奮などで身体が激しくふるえるさま。	恐怖・寒さなどで体の震えるさま。	怒り・恐怖・寒さ・病気などで人体やその一部が継続して大きく震える様子。	見出し語なし

<http://news.kanaloco.jp/localnews/article/1012040008/>

## 2.3.1. 各語彙の意味解釈と統語的用法

### 2.3.1.1 「かっと」

#### 意味と統語的用法

各辞書とも急に怒り逆上するさまであると説明している。

(49)怪談牡丹灯籠〈三遊亭円朝〉「カッと逆上せて耳朶が火の如く潮紅（まっか）になり」（国）

(50)「その酔っぱらいは行列の割り込みをとがめられ、かっときて相手を線路に突き落とした。」（擬）

(49)、(50)は「とする（なる・くる）」が付いて述語になる。

「かっと」は「急激に熱くなるようす」を表わす意味合いが強い言葉である。例えば、「西日がかっと照りつける」は太陽の熱、「マーボー豆腐を食べたら口の中がかっとなつくなつた」は香辛料の辛み、「無理にお酒を飲んで顔がかっとなる」は酒による上気、「裏切られたと知った瞬間、頭に血がかっとなつた<sup>43)</sup>」は感情の高揚を表わすといった具合である。感情の高揚を表わす場合以外は、熱くなる身体の部位に対する描写や「西日が照る」というように感情表現とは相容れない記述が見受けられるので、区別が容易である。また、「かっとなつた」場合は例文にもあるように「殴る」とかいう第三者に直接的危害を加える、つまり、「かっとなる→手を上げる」という要素があるということを知っているならば、この語彙について理解しやすいと見える。

### 2.3.1.2 「かっか」

#### 意味と統語的用法

各辞書の説明は、激しくおこって興奮する様子を表す。

(51)「かっかとして殴ってしまった。」（類）

(52)「十分ぐらい遅れたからってそうかっかするなよ。」（擬）

(51)は「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

43) 現代擬態語擬音語辞典 p51 参照

(52)は「する」が付いて述語になる。

「かっか」は使用法が「かっ」に似ているが、「かっ」は熱くなる瞬間に視点があり、「かっか」は動作や行動そのものを表わす。例えば、「かっとする」は「怒る」瞬間のことで「かっかする」は「怒っている」状態を表わすというニュアンスの違いがある<sup>44)</sup>。

### 2.3.1.3 「かりかり」

#### 意味と統語的用法

辞書の説明は神経がいらだち今にも怒りだしそうだという状態を第三者が見て評する表現である。

(53)「無責任な批評にかりかりする。」(集)

(54)「課長は朝からかりかりしているから気をつけろ。」(擬)

(53)、(54)は「する(している)」が付いて述語になることが多い。

「かりかり」はいらだちを表現するのにも用いられるが、「かりかりベーコン」や「かりかり梅」、「かりかりとよく揚ったエビフライ」のように軽くて比較的薄くて堅い物がこわれる音や様子を表わす<sup>45)</sup>記述が多く見られる。感情を表わす表現を汲み取るのは例文のように動作の主体に注目するとよい。人が主体ならば「怒り」出しそうないらだち感情を表わすと受け取って構わない。

### 2.3.1.4 「ぷつつん」

#### 意味と統語的用法

辞書における説明は、我慢や抑制が突然きかなくなって感情的・衝動的な行動に走る様子を表すとある。

(55)「朝帰りが三日続いたら女房のやつ、プツツンしちゃってさ。」(擬)

(55)は「する」または「しちゃう」が付いて述語になる。

44) 現代擬態語擬音語辞典 p53参照

45) goo辞書、「デジタル大辞泉」 <http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/46152/m0u/>

「ぷつつん」は張つめていた糸や細いひもなどが急に断ち切れる音や様子を表わす「ぷつつん」の強調形である<sup>46)</sup>。それが転じて感情の緊張が制御を失い途切れてしまい、極端な行動に出るニュアンスを表わすようになった俗語である。

### 2.3.1.5 「むっ」

#### 意味と統語的用法

各辞書では込み上げる怒りを心中で抑え込んでいるようす、または、その様子が表情に表われると説明している。

- (56) 「大臣は記者の質問にむっとした顔をした。」(擬)
- (57) 「なじられてむっとなる。」(広)
- (58) 「面と向かって欠点を指摘されてむっときた。」(擬)
- (59) 「注意されてむっとしているのがよくわかる。」(類)

- (56)は「とした」が付いて、名詞にかかる修飾語になる
- (57)は「～となる」が付いて述語になる。
- (58)は「～とする」が付いて述語になる。
- (59)は「～とくる」が付いて述語になる。

「むっ」には「怒り」をがまんしている表現の他に熱気や悪臭などで瞬間的に呼吸をこらえる表現のときにも用いられる。例えば、「汗の臭いがむっとする」、「湿気でよどんだ部屋の空気がむっとした<sup>47)</sup>」のようにである。ここでもやはり、人が主体の時に「怒り」を表わす表現になる。

### 2.3.1.6 「めらめら」

#### 意味と統語的用法

この語彙には「広辞苑」、「角川国語辞典」、「現代擬態語擬音語辞典」の三つが説明をつけいる。「広辞苑」、「現代擬態語擬音語辞典」では比喩的に、胸に強い感情や衝動が生まれるさまとあり、「角川国語辞典」は単に炎を出して燃えるさまと説明しており「怒り」に関する説明はない。

46)goo辞書、「デジタル大辞泉」<http://kotobank.jp/word/%E3%81%B7%E3%81%A3%E3%81%A4%E3%82%93>  
47)ヤフー辞書：[yahoo.co.jp/search?rkf=2&dtype=2&ei=utf-8&p=%E3%82%80%E3%81%A3%E3%81%A8](http://yahoo.co.jp/search?rkf=2&dtype=2&ei=utf-8&p=%E3%82%80%E3%81%A3%E3%81%A8)

(60) 「怒りがめらめらと燃え上る。」(広)

(61) 「男の目には復習の炎がめらめらと燃えていた。」(角)

(60)、(61)は単独または「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

「めらめら」は比喩的に情熱や怒りが燃え上がる様子を表わすとあるが、そのような状態を表したのが下の写真である。



写真5:

例文(61)のように「男の目には復習の炎がめらめらと燃えていた。」と実際に怒っている人の目の様子から炎が燃え上がっているのを見ることはない。故に「めらめら」は「怒り」の表出というより、下記の歌詞のように比喩的に使われることが多い。

(62) 「めらめらハートが熱くなる、めらめらハートが熱くなる、めらめらハートが燃えてくる<sup>48)</sup>」

### 2.3.1.7 「わなわな」

#### 意味と統語的用法

各辞書とも恐怖・興奮・寒さなどのためにわななき震えるさまと説明している。

(63) 「怒りで唇をわなわなさせる。」(広)

(64) 「わなわなと震えがとまらない」(集)

(63)、(64)は単独でまたは「と」が付いて述語にかかる修飾語になる。

「わなわな」には寒さなどの外的要因により起こる震えや、怒りや興奮といった心理的

48)プリティーズム・オーロラドリーム ライブチック・キャラクターソングCD act.5 めらめらハートが熱くなる  
<http://www.uta-net.com/song/116418/>

作用による震えもあるのだが、「仕事でわなわな震えるほどいらした事はありますか」49)の例にもにもあるように極度のイライラなどにより震えるときにも使われることがあるようである。

---

49) [http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1333722753](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1333722753)

### Ⅲ. ジェンダーの違いによる分類の考察

次に上記の人称性による擬態語の分類に加えてジェンダーの違いからも分類することを試みた。感情を表すには当然個人差があるが、ある種の擬態語にはその使われ方が明らかにジェンダーにより区別されるものがある。例えば、「つんつんする」という表現の場合、辞書の解釈では「態度が高慢であつたり冷たかつたりして取っつきにくいさま。(つんけん) 50)」とあり、これが老若男女、すべての人の感情表出を表す時に適当かという、その判断基準は、辞書の説明からだけでは分かりにくい。それで、各擬態語の使い方をジェンダーの面から区別してみることにする。これらを分類するにあたっては、各辞書からジェンダーがはっきりしている例文を取り上げ、それに加えて日本の検索エンジンやブログ、ホームページなどに掲載されたり、書き込まれた文章の他、各言葉のイメージを理解する上で参考としてイラストや写真なども取り上げた。また、男、女とに分類し、男女の区別がない場合は両性と記すことにする。

#### 3.1. 「三人称のグループ」におけるジェンダーの考察

##### 3.1.1 「かんかん」—両性

(65) 「卍」 〈谷崎潤一郎〉二四「光ちゃんのお父さんかんかんになって怒る。」(国)

(66) 「北東の風」 〈久板栄二郎〉二「先生もかんかんになって怒るやろう。」(国)

辞書の例文からは一見男性の中年のイメージが思い浮かぶのだが、検索エンジンにある例文には

(67) 「嫁さんの母親の誕生日(しかも還暦・・・)だったのですが、嫁さんも私も、すっかり忘れており、義母がカンカンに怒ってしまっている状態です。」というのもあり、「かんかん」は必ずしも男性だけが表す怒りの感情ではなく(67)の例からも分かるように女性にも使われるのでジェンダーの面から区別はないと見てよいと思われる。

---

50)広辞苑



イラスト1:

### 3.1.2 「きっと」—両性

(68) 「その子は母親をきっとにらんだ。」(擬)

(69) 「その言葉に、彼女はきつとなった」(擬)



写真6:

この「きっと」はもと、歌舞伎の演技の用語として台本のト書中に「きつとなってにらみつける」のように用いたようである。<sup>51)</sup>また、この「きつ」は瞬間的に厳しい緊張が表情に表れる時に用いられるので、ジェンダーの区別はなく両性と判断できる。

<sup>51)</sup>goo辞書、<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/52960/m0u/>

### 3.1.3 「けんけん」一両性

(70) 「受付の女の子にけんけんした言い方をされた。」(擬)

(71) 播磨 「出てけよ！」

絃子 「…私は具合が悪いんだぞ？」

播磨 「じゃあ部屋で寝てりゃいいじゃねーか！」

絃子 「病院に行こうと思って1回帰ってきているのに…なぜそんなにケンケン言うのかね…」

「けんけん」には「つっけんどんさま」（広辞苑）という説明があるのでイラストは「つっけんどん」な態度を表しているものを援用した。イラストや辞書の例文からのからのイメージでは、やはり女性に使われる傾向にあるようだが、検索エンジンから抜き出してきた会話文にあるように男性にも使われるので、両性とした方がよさそうである。



イラスト2:突っ慳貪 (つっけんどん)

### 3.1.4 「つけつけ」一両性

(72) 「彼女は年下の相手にはつけつけ物を言う。」(擬)

(73) 「姑はヒステリックにつけつけと小言を言った。」(擬)

この「つけつけ」という言葉は元々京ことばで「そないにつけつけいうもんやおへん<sup>52)</sup>」のように使われていたそうだが、実際に各辞書やその他の資料に例文が見当た

52)デジタル大辞泉：<http://livedoor-search.naver.jp/search?>

らない。それで、集英社、角川、日本国語大事典などでこの「つけつけ」という単語を「ずけずけ」説明してあるので、その解釈を援用することにした。

\*ずけずけ

(74) 「体型にかかわらず本人が気にしてることをずけずけ言う人ってなんなんでしょうね。会うたび「細いね」とか言われるならそのたびに「神経太いね」とか言っちゃえば？」



イラスト3: 「ずけずけ言い過ぎです。紺野は、玉緒が自分のこと苦手なのもわかってやってると思う。」

例文(74)は女性が「ずけずけ」言う場面であり、また、「石原都知事みたいに、いつも上から目線で、ずけずけ物言う人をどう思いますか？」<sup>53)</sup>という文にもあるように「ずけずけ」には性差を越えて、無遠慮に話すさまを表す。「つけつけ」が「ずけずけ」という意味も含んでいるので、「ずけずけ」の意味を援用して「つけつけ」は両性と判断できる。

### 3.1.5 「つん(と)」一女

(75) 婦系図「〈泉鏡花〉前四七「お妙はツンとして横を向いた」(国)

(76) 「恵は美人だがつんととりすました感じがしない。」(擬)

(77) ウェディングブーケを見てからずう〜と作ってみたかったお花。ブルー系のお色だとつんとすました、きれいなお姉さんみたいでしょ。

53) [http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail/q1024753570](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1024753570)



写真7:つんとおすまし顔で、何を見ているの(♥→艸←) ?

「つんと」は写真7にある女性のように取り澄まして気取ったりするさま。また、しばしば主体があごを上げ鼻を天井に向け顔だけ横に向く姿勢になる<sup>54)</sup>ことが多く主体は女性に多いので、女性に対して使われると見てよかろう。なお、この「つんと」にかぎらず「つんつん」や「つんけん」のように「つん」という音を含んでいる擬態語は女性の様子を表わす時に用いられることが多い表現で、男性に使われることは皆無に等しいと言えよう。

### 3.1.6 「つんけん」一女

(78) 「妻は朝からつんけんしている。」(擬)

(79) 「その係りはいやにつんけんした女だった。」(擬)

(80) 「友だちになりたい女性アスリートランキング」3位 浅田真央「つんけんして  
いなくて、話しやすそう」

(81) 「注文をとってくれた店員さんがツンケンした人でした。でもすごく美人だったので、ツンケンされても腹立たしくないというか、潔さを感じるというか、とにかくクールなツンケンぶりと見た目があっているカンジだった。」

「つんけん」は「つんつん」や「けんけん」似ている。<sup>55)</sup>「つんつん」は「無愛想にとりすましてるさま」<sup>56)</sup>で、高慢な態度で相手に自分の感情を表すときに用いられる。また「けんけん」は「つっけんどんで物の言い方がとげとげしいさま」とあるように、主に物の言い方について用いる。そして「つんけん」は「つんつん」や「けんけん」似ているので、「つんつん」していて「けんけん」しているさま、つまり「無愛想にとりすましていて、物の言い方がとげとげしいさま」と解釈しても無理はなかろうと思われる。

54)現代擬態語擬音語辞典 p308参照

55)現代擬態語擬音語辞典 p308参照

56)<http://dic.search.yahoo.co.jp/search>



イラスト4: つんけんMさん

### 3.1.7 「つんつん」一女

- (82) 「デートをすっぽかしたら、彼女は急につんつんするようになった。」(擬)
- (83) 「生活で、ちょっとしたことでも旦那につんつんあたっている自分がいました。きっと旦那にとっては「うるさいお婆さん」以外の何者でもないと思います。」
- (84) 「女の人が多く難しい職場です。その方は事務所創設当初からの、一番長い先輩です。他の人達に煙たがられています。私も嫌な事言われたりつんつんされたり泣きながら帰った事も有ります。」

「つんつん」は「つん」の連続形または強調形<sup>57)</sup>なので、これも「つん」と同じく女性と区分する。

### 3.1.8 「ぴりぴり」一両性

- (85) 「ぴりぴりしている試合前の選手」(集)
- (86) 「両首脳とも神経をぴりぴりさせていた。」(擬)

(85)、(86)の例文にあるように、「ぴりぴり」は神経や雰囲気などが非常に緊張している様子を表わし、性差はないので両性と判断できる。

57)現代擬態語擬音語辞典 p309参照

### 3.1.9 「ぷいっ (と)」一両性

- (87) 「注意すると学生はぷいっとそっぽを向いた。」(擬)  
(88) 「おやに意見されぷいとそっぽを向いた。」(類)  
(89) 「小学5年生の娘です。気に入らないことや気に障ることを言われると“ぷいっ”とふてくされてしまいます。」



イラスト5:知らな〜い★ぷいっ

「ぷいっ (と)」は上の例文やイラストなどに見られるように女性に多くみられる様子である。しかし、その表現の意味は不機嫌・怒りで急に顔をそむけたり、その場を立ち去ったりする動作を表わすものであるので、男性を排除するには無理があると思われる両性で見なすのが妥当であろう。

### 3.1.10 「ぷっと」一両性

- (90) 「子供は怒られてぷっと頬をふくらませた。」(擬)  
(91) 「気に入らないことがあるとぷっと腹を立て何日も口をきかない夫。」  
(92) 「子どもは本当によく見ていますね〜。「幼稚園の先生はどうやって怒るの？」と聞いたら「こうだよ」といってぷっとほっぺをふくらましたのでおもしろかったです。」



写真8:

「ぷっと」も「ぷいっ(と)」と同様に女性や子供の表情によく表れるのだが、(91)の例文にあるように男性にも使われるので、両性と区分した。

### 3.1.11 「ぷりぷり」一両性

(93) 「女房のやつ、朝からぷりぷりおこっている。」(擬)

(94) 「社長は会議で黙殺されてぷりぷりしていた。」(擬)



イラスト6:

「ぷりぷり」は例文やイラストからも分かるように非常に憤慨して機嫌の悪いさまを表わし、性差は見受けられないので両性とした。

### 3.1.12 「ぷん(と)」一両性

(95) 「彼女はすねてぷんと横を向いた。」(擬)

(96) 「彼はぷんとして部屋を出ていった。」(類)

(97) 「森木田は好機を逃すまいと、ちゅ〜っと軽めのお決まりのキスをする。

なっ!!どさくさにまぎれてっ!!ぷんとふくれっ面になって怒るが、もう既に森木田は校庭に視線を移し、中央に坐す鬼の姿を捉えている。」



写真9:もうほっぺ膨らまして怒ってるよ(;'ω;)ぷん

「ぷん(と)」は上の写真のように、怒ってふくれるさまを表わし、例文にもあるように性差はないと思われる。

### 3.1.13 「ぷんぷん」一両性

(98)「普段は温厚な旦那がぷんぷん怒っている。昨日は順調に浮き輪を落としたデンキウナギが今日は朝から釣れるのに一個も浮き輪を落とさないからだった。」

(99)「温厚なもとりんさん(で、世間では通ってる)も、ぷんぷん怒ることがあった。自分にやられたことを怒るより、お友達や家族がイヤな目にあった時の方が、よりヒートアップする傾向にあるようだ。。」



イラスト7:

「ぷんぷん」は先の「ぷん」の連続・状態形<sup>58)</sup>なので性差がないと見てかろう。

58)現代擬態語擬音語辞典 p512参照

### 3.1.14 「むすっ」—両性

- (100) 「今日は工作中に機嫌悪いって言われた(・3・)眠いんですって言い訳したけど、ちょっとむすっとしてたかもしれない。」
- (101) 「仲のいい友達がいきなり怒ってしまいました。少しむすっとしていたから、[どしたん? ]って聞くと、[なんもない]って言います。私と相手は中2の女子です。」



写真10:

「むすっ」は上の写真のように機嫌悪く不満そうに黙りこんでいるさまで、例文にもあるように男女両方に使われる。

### 3.1.15 「むっつり」—両性

- (102) 「9回ミス連発で暗転…尾花監督 3連敗にむっつり」
- (103) 「むっつりな私が思いだすたびに笑ってしまうことがあったの」

「むっつり」は口数が少なく無愛想な表情であるさまを表わし、(102)の例は男性を、(103)の例では女性を表しているので、ここに性差はないと思える。

## 3.2. 「一人称のグループ」におけるジェンダーの考察

### 3.2.1. 「かちん」—両性

- (104) 「あの女の、人をばかにしたような態度にかちんときた。」(類)
- (105) 「男性が思わずカチンとくる一言で多かったのが、デート中に『疲れた』や、

『つまんない』などのわがままなフレーズ。一方、女性は「ちょっと今日メイク濃すぎじゃない？若作りしてるの？」などと美容や年齢に関して無神経なことを言われたときにカチンとくるよう。」

「かちん」は相手の言動が自分の感情を刺激して、不愉快になるさまで、(104)や(105)の例文にあるように男女ともに用いられる。

### 3.2.2. 「むかつ」一両性

(106) 「最近「むかつ」ときたのは、1歳7ヶ月の息子がお菓子をほしがった時、泣いても買わないで、その場所から離れたら、他所のオバサンがついてきて「泣いてるのをどうするのかと思って。買ってやればいいのに」って言われた事です。」

(107) 「妻に反抗されてむかつとした。」



写真11:

「むかつ」は体の中から怒りが急に込み上げてくるさまで、(106)、(107)の例文からも分かるように性差はない。

### 3.2.3. 「むかむか」一両性

(108) 「今日は久しぶりに化粧して私服も着たー(´・\_・`)ガイダンスうけるはずだったのガイダンス中止なのを途中できいて2人でむかむか(`×´)(`Δ´)笑。13:00時から成績公開だったのにみれなかった！だからまた2人でむかむか(`ε´)(-3-)w」

(109) 「むかむか~！あまりにしつこくIE8からIE9に更新するように通知が出るので更新したらやたらと重くなるわ、文字入力がローマ字から変わらなくなるわ解決策としてオフィスワード更新しろと…IEだけじゃありません。」



イラスト8:

「むかむか」は「むかつ」の連続・状態形<sup>59)</sup>なので「むかつ」と同じく両性と見なす。

### 3.2.4. 「むしゃくしゃ」一両性

(110) 「子供を母親の気持ちがむしゃくしゃした時に虐待することは正しいことですか？」

(111) 「倉庫に放火した中学3年の少年「受験勉強でむしゃくしゃして、ライターで火をつけた」と話しているという。」



イラスト9:

「むしゃくしゃ」は腹が立って、いらいらしたりするさまを表わし、例文の(110)や(111)、イラストに見られように性差は見当たらない。

59)現代擬態語擬音語辞典 p591参照

### 3.2.5. 「むらむら」—両性

(112) 「むらむらと怒りが込み上げてきた」(類)

(113) 「残酷なうちに怒りがむらむらこみあげてくる。」(擬)

「むらむら」は怒り・意欲・性欲などの激しい欲求が次々とわき起こる様子を表わすが、性差はみうけられないので両性とした。

## 3.3. 「併用のグループ」におけるジェンダーの考察

### 3.3.1. 「かっ」と—両性

(114) 「福岡、女兒暴行容疑で母親逮捕 「かっとなってやった」

(115) 死体遺棄容疑で逮捕された容疑者(60)が「(女性と)口論になり、かっとなって首を絞めてしまった」

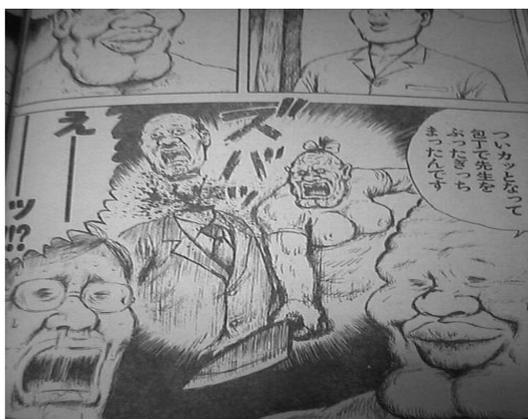


イラスト10:

「かっ」とは急に怒り逆上するさまで、前後の見境のない行動に走りやすいニュアンスを含んでおり、(114)や(115)の例文、イラストに見られように男女ともに使われる。

### 3.3.2. 「かっか」—両性

(116) 「住民無視の動燃の姿勢に住民はかっかと怒った。」(擬)

(117) 「石炭のようにかっかと怒る彼に声をかけられる者は、誰もいなかった。」

(118) 「怒っていないのが不思議に思ったりするが、元々あの人はかっかと怒るような人じゃなかったっけ。」



写真12:表面ではかっかといきなり怒るが・・・

「かっか」は「かっ」との連続・反復形<sup>60)</sup>なのでこれも両性と区分する。

### 3.3.3. 「かっか」一両性

(119) 「浮気をしているのかもしれないという嫉妬でかりかりするのと、今度はその浮気相手に彼を奪われるかもしれないことにおびえてしまう毎日です。」

(120) 「子どものためになっているとは思いますが、早く食べなさい、早く寝なさい、ゴロゴロとテレビばかり見てるんじゃない、とかりかりすることも多いです。」



イラスト11: 「そんなにかりかりしないで怒るほどのことでもないよ」

「かりかり」神経がいらだち今にも怒りだしそうだという状態で、(119)や(120)の例文、イラストから性差は見られない。

60)現代擬態語擬音語辞典 p52参照

### 3.3.4. 「ぶっつん」—両性

(121) 「彼氏に二股かけられたの知って、あの子プツンしちゃって、もう大騒ぎ」

(122) 「渡辺監督とオリックスの山田バッテリーコーチは頭に血が上りプツン。  
殴り合い寸前の2人を周囲の選手が必死に止めるなど」



イラスト12:

「ぶっつん」は我慢や抑制が突然きかなくなって感情的・衝動的な行動に走る様子を表すを表わすが、(121)や(122)の例文に見られるように性差はないとみて良からう。

### 3.3.5. 「むっ」—両性

(123) 「相手が全然謝ろうとしないのでむっとした。」(擬)

(124) 「面と向かって欠点を指摘されてむっときた。」(擬)

(125) 「無神経なことを言う人で頻繁にムツとくことを言う男性もいますが  
ムツとしても態度になんか出しません。そこでムツとするのは子供っぽくて  
恥ずかしくて出来ません。ムツとしてしまった人を見たら結局どっちもどっち  
という印象になりますね。」



写真13:ヘインをジョンウに持ってかれてむっとするソン・ヒョク。

「むっ」は込み上げる怒りを心中で抑え込んでいるようすやそれが表情に表われるさまであるが、(123)や(124)、(125)の例文に見られるように性差は見られない。

### 3.3.6. 「めらめら」—両性

(126) 「怒りがめらめらと燃え上る。」(広)

(127) 「男の目には復習の炎がめらめらと燃えていた。」(擬)



「めらめら」には比喩的に胸に強い感情や衝動が生まれるさまを表わし、上の写真(写真5)や例文のように男女区別なく使われる。

### 3.3.7. 「わなわな」—両性

(128) 「わなわなと震えがとまらない」(集)

(129) 「父の手は怒りのあまりわなわなと震えていた。」(擬)



イラスト13:

「わなわな」は怒りなどのためにわななき震えるさまを表わし、震えるさまに男女の区別はないので両性とした。

以上「怒り」を表わす各擬態語の使い方をジェンダー一面から分類してみたのだが、その結果、明らかになったのは、男性のみに使われる擬態語は見当たらないということである。つまり、両性と女性のふたつに分けられるということである。それらの分類は以下の表5の通りである。

表5

両性	「かんかん」「きつ」「けんけん」「つけつけ(ずけずけ)」「ぴりぴり」「ふいっ」「ぷっ」「ぷりぷり」「ふんふん」「ふん」「むすっ」「むっつり」「かちん」「むかっ」「むかむか」「むしゃくしゃ」「むらむら」「かっ」「かっか」「かりかり」「ぷっつん」「むっ」「めらめら」「わなわな」
女性	「つん」「つんけん」「つんつん」

上の表5から分かるように、「怒り」を表わす擬態語は「つんと」や「つんけん」、「つんつん」を除いてほとんどジェンダーの区別なく使われる。つまり「つんと」や「つんけん」、「つんつん」が女性の感情表出の時に使われる表現であるということに気をつけさえすれば、「怒り」を表わす擬態語を駆使する上で、ジェンダーの区別による誤用は避けられよう。

## IV. 「怒り」の度合いの強さの比較

これまで考察してきた語彙を、ここでは「怒り」の表出の強さの度合いを比較することを通して各言葉が表す「怒り」の強弱を示すことを検討した。

怒りの感情表出の様子を表す擬態語の意味解釈や用法及びジェンダーの考察について今まで述べてきた通りだが、各語彙が持つ怒りの強弱の差を比較することにより、怒りを表現する擬態語を正しく、より適切に使うための目安となるであろう。ここでは、本稿で取り上げた例文と写真及びイラストをその判断根拠とした。

「怒り」の感情の表し方は人それぞれだが、その様子を当事者または他者が見たり感じたりする時、その表された「怒り」とはどのようなもので、また、その感情がどこまでエスカレートして次の段階、つまり、感情の表現からその結果として及ぶその次の動作や行為にどのように現れるのかということに、焦点を絞った。

例えば、「カッと」という単語に添えられたマンガの吹き出し文句の中に「カッとになって(中略)ぶったぎっちゃまったんです」とあるのだが、これは「カッとなる」という怒りの感情の表れが「ぶったぎっちゃまった」という行為に及んでいることを意味する。視覚的にもとても刺激的であるばかりでなく、セリフもただ「切る」ではなく「ぶったぎる」という、例文として扱うにはそぐわないほどの強いニュアンスが感じられるほどの言葉である。ちなみに「ぶったぎる」の「ぶった」<sup>61)</sup>は「打(ぶ)つ」に由来し、他の動詞に「打ち/ぶち」が付くと「ふと/ぱっと/威勢よく」その他の荒っぽい動作として強調・誇張の気配を示す副詞的な接頭語である。

擬態語だけでは、その表現しようとする「怒り」の強さが正確に伝わらない恐れがあるので、それらを先に述べた「カッとなる」の例のように整理して、「怒り」の強弱の順に並べて見ることにする。

取り扱う順序は、人称性でとりあげたグループ別(三人称、一人称、併用)の順に準じながらも、最終的にはそれらの語彙を「怒り」の強弱順にまとめて提示することにした。

### 4.1. 「怒り」の強さの度合い(三人称のグループ)

三人称のグループの単語—かんかん、きっ、けんけん、つけつけ、つん、つんけん、つんつん、ぴりぴり、ふい、ふっ、ぷりぷり、ふん、ふんぷん、むすっ、むっつり。

総じてこのグループの場合、「怒り」を表わしてはいるが、そのせいで他者に肉体的、精神的危害を及ぼす行為に出るといった緊張感を感じ取られない。

61) 「ぶん殴る」の「ぶん」はどこから来た? ...blog.goo.ne.jp/.../e/98dfca7c3c95fdc92f486b3bba575ac3

そして、このグループを「怒り」強さがどのように行動として表れているのという部分から検討してみる。

「怒り」を表面に表わさずに黙っているので「怒りの度合い」が低い部類として分けられるのが「むすっ」、「むつつり」である。中でも「むつつり」は「怒り」というよりは愛想がなく黙っているさまなので「怒り」という範疇では一番程度が低いと言えよう。

次に怒っている様子を表情で見て取れるのが次の段階と言えよう。

それらの部類には顔の表情に表れる「きっ」、「つん」、「つんつん」、「ぷいっ」、「ぷっ」、「ぷん」、「ぷんぷん」、「ぷりぷり」がある。

「つん」、「ぷいっ」、「ぷっ」、「ぷん」は不満や物事が自分の思い通りにならずふてくされる様子を表わすのだが、概して強い「怒り」の表れというよりも不満、不平の表出と見て差し支えない。ところが、「きつと」には口には出さないが、相手をにらみ付ける目付で相手を威圧したり、緊張感を感じさせるので、怒りの度合いが強い態度の表れと見える。

「ぷんぷん」、「つんつん」はそれぞれ「ぷん」や「つん」連続・強調形なので、「ぷん」や「つん」の持つ不満な感情がより高じて更なる感情の激しさを伴い「怒り」として表れている。

不満や不機嫌なせいで他者に対して表情に加えて言動で反応する語彙に「けんけん」、「つけつけ」、「つんけん」がある。

これらの語彙は当人の感情が言葉と表情で表わされていて、その言動が他者をととても不愉快にさせるほどの「怒り」の表出である。中でも「つんけん」は「つんつん」と「けんけん」の合成語のような意味を持つので「怒り」の度合いがそれだけ強いと言えよう。

「かんかん」は「かっか」似ているが、熱や怒りのせいで熱くなっている様子で、「かんかん」はその激しい怒りが外見からも容易に分かり次の行動が予測がつかない様子を表わす。

このように検討してみると、三人称のグループの「怒り」の度合いが一番弱いのは「むつつり」、「むっ」の順で続いて、「つん」、「ぷいっ」、「ぷっ」、「ぷん」「きっ」と顔の表情で感情を表わす部類。顔の表情に加えて言動を伴う「けんけん」、「つけつけ」、「つんけん」と続く。その上に「怒り」を強く表わしている「つんつん」、「ぷんぷん」、「ぷりぷり」、「かんかん」となる。

「ぴりぴり」は、今まで検討した限りにおいては「怒り」の表出というより、その人や雰囲気緊張感を表わしていることが多く見られ、ここでの「怒りの度合い」という分類では「番外」扱いと見なすべきであろうと考えられる。

## 4.2. 「怒り」の強さの度合い(一人称のグループ)

一人称のグループの単語—かちん、むかつ、むかむか、むしゃくしゃ、むらむら

「かちん」は自分の意に反するものの存在(言動)によって感情がいらだち荒れることが「怒り」の表出なのだが、通常、私たちが「怒り」というニュアンスからすると、その強さの度合いが低いと言える。この「かちん」には、衝撃と嫌悪の暗示があるが、怒りの程度はそれほど高くない。

「むかつ」はしばしば怒りのために思考が停止して極端な行動を起こす暗示がある。

「むかむか」は「むかつ」の誇張形なので、「むかつ」と「怒りの度合い」が強いとと言える。

「むしゃくしゃ」は漠然とした不可解な不快や怒りを感じる様子を表し、しばしばその怒りを解消する(攻撃的な)行動に出るニュアンスがある。

「むらむら」は「怒り」を表わす場合もあるが、先にあげたようにほとんど性欲表出の表現に表れる場合が多い。しかし、この場合でも他者に危害を加える行為に及ぶことがあることは付け加えておくべきであろう。

一人称のグループで「怒り」の度合いが一番弱いのは「かちん」で「むらむら」、「むかむか」、「むかつ」、「むしゃくしゃ」の順に「怒りの度合い」が強くなる。

## 4.3. 「怒り」の強さの度合い(併用のグループ)

併用のグループの単語—かつ、かつか、かりかり、ぶつつん、むっ、めらめら、わなわな

「かつ」は逆上して「かっとなってXXした」というように自分の取った極端な行動を振り返って言うことが多い。

(130)妻に反抗されてカッとなった。(思わず手を上げた)(擬)

「かつか」は「かっ」との持続、強調形で、同じく怒りや興奮するその状態が継続している様子なので、「かっ」とよりも「怒り」が強い。

「かりかり」は、怒っているという意味ではなく、怒りやすい状態になっているのを第三者から見て表現である。

「むっ」は瞬間的に起こった不快感や怒りを言葉や態度に出すまいとする表情を視覚的に表し、我慢の暗示がある。「怒り」を抑えているのが、端から分かるくらい「怒って」いる。状態なのだが、怒りの度合いは外に出すまいとしているだけ弱い。

(131)妻に反抗されてむっとした。(不快になって押し黙った)(擬)

「めらめら」は比喩的に使う表現なので日常会話や実際の場面で使われることはごく稀であり、「怒り」の表出という部分では使用頻度の低い言葉であると言える。

「わなわな」、この言葉は震えるさまからして見た目にも「怒り」の表現が分かるが、第三者に直接危害が加わえるようには見受けられない。

このように見ると、併用のグループで度合いが一番弱いのは「むっ」で、「かりかり」、「めらめら」、「わなわな」、「ぷつつん」、「かつ」、「かつか」の順に怒りの度合いが強くなる。

#### 4.4. 「怒り」の強さによる分類

これら三つのグループを総合して、怒りの強さの度合いでAからEまでグループ別に分類してみることにする。

Aグループ—「怒り」の度合いが相当強く、次の行動が予測できず、他者に危害を加えるニュアンスがある。

Bグループ—肉体的危害を加える程ではないが、自身の「怒り」を露にすることで他者に不快感を与えたり気分を害する言動をとる。

Cグループ—「怒り」を表情や動作で表わす。

Dグループ—「怒り」を抑え込んで黙っている。

Eグループ—「怒り」を表わす以前の不機嫌な様子や雰囲気が見てとれる。

「怒り」の強さの度合いを上から順に表6にして表わした。

表6

A	「かつか」「かつ」「ぷつつん」「むかむか」「むかつ」 「むしゃくしゃ」「わなわな」
B	「かんかん」「ぷりぷり」「ぷんぷん」「つんけん」「けんけん」 「つけつけ」
C	「めらめら」「きっ」「つんつん」「ぷい」「ぷん」「ぷっ」「つん」「かりかり」
D	「むっ」「むらむら」「むすっ」「かちん」「むつつり」
E	「ぴりぴり」

怒りの強さを表す擬態語の整理のためにこれまで検討してきた「怒り」の強さによるグループ別の分類に個々の語彙を当てはめて、その強さをAからEまでランク付けをしたのが表7である。

表7

A	「かっか」(併用、両性) 「かっ」(併用、両性) 「ぶつつん」(併用、両性) 「むかむか」(一人称、両性) 「むかっ」(一人称、両性) 「むしゃくしゃ」(一人称、両性) 「わなわな」(併用、両性)
B	「かんかん」(三人称、両性) 「ぶりぶり」(三人称、両性) 「ぶんぶん」(三人称、両性) 「つんけん」(三人称、女) 「けんけん」(三人称、両性) 「つけつけ」(三人称、両性)
C	「めらめら」(併用、両性) 「きっ」(三人称、女) 「つんつん」(三人称、女) 「ふい」(話者、女) 「ぶん」(三人称、両性) 「ぶっ」(三人称、両性) 「つん」(三人称、女) 「かりかり」(併用、両性)
D	「むっ」(併用、両性) 「むらむら」(一人称、両性) 「むすっ」(三人称、両性) 「かちん」(一人称、両性) 「むつつり」(三人称、両性)
E	「ぴりぴり」(三人称、両性)

## V. おわりに

本稿では、怒りを表す擬態語27語を取り上げ、それらの意味的解釈と統語的使用法の違いを分類し、考察することにより日本語学習者の「怒り」を表わす擬態語の理解と習得の一助にしようと試みた。また、取り上げた擬態語が「一人称」や「三人称」で怒りの状態や場面を描写するのか、または「一人称」や「三人称」とも「併用」して使われるのかという人称性別に分類してみた。更にそれらに分類した語彙をジェンダーの違いがあるのか分析した。つまり、その単語が男性に対して使われるのか、女性にのみ使われるのか、または男女区別なく使われるのかということにも注目して考察してみた。それで明らかになったのは「つん」、「つんけん」、「つんつん」は主に女性に対してのみ使われ、男性の「怒り」を表現するにはそぐわないということである。

その他の擬態語に性差は見当たらないので、使用上、性差の違いに注意する必要はない。それらの考察を踏まえて各単語の「怒りの度合い」を強弱別に区分してみた。

その結果、「怒り」の程度が一番強い語彙は「怒り」の表出が他者に肉体的、精神的危害を加えるニュアンスを含む「かっか」、「かっ」、「ぷっつん」、「むかむか」、「むかっ」、「むしゃくしゃ」、「わなわな」で、それらより「怒り」の程度は低い、言葉と行動で「怒り」を表す「かんかん」、「ぷりぷり」、「ふんぷん」、「つんけん」、「けんけん」、「つけつけ」の語彙である。上記の語彙より更に強さが弱く、顔の表情と動作で「怒り」を表す「めらめら」、「きっ」、「かりかり」、「つんつん」、「ふい」、「ふん」、「ぷっ」、「つん」があり、同じく顔の表情に表れるが「めらめら」などより「怒りの度合い」が低い語彙には、口数少なく黙っている様子が「怒り」を我慢していたり、抑え込んでいるか、或いは「怒り」の表出ではないのだが、端からはそのように見える「むっ」、「むらむら」、「むすっ」、「かちん」、「むつつり」がある。

これらの考察と分析を経た各語彙の用法を「怒り」の強さの順に整理してみると「かっ」が一番「怒り」の度合いが強く、この語彙は「一人称」で表し性差なく使われるということが分かった。

本稿で扱った内容や項目が「怒り」を表わす擬態語を使う日常生活や表現の場面において適切な描写をする上での参考になりうるものと思われる。また、擬態語の使い分けについての詳しい分析は外国人日本語学習者にとって大変重要且つ欠かせない作業であり、今後の課題としても更なる多くの研究が求められる。

## 【参考文献】

- 寺村秀夫 著 (1991) 『日本語のシンタックスと意味』 第Ⅲ巻 くろしお出版
- 山田良治 (1972) 『擬声・擬声語・擬声的表現-2-「教養諸学研究」38・39  
早稲田大学政治経済学部教養諸学研究会
- 森下喜一 (1988) 『擬態語の特性について-特に感覚表現の語を中心に』  
「岩手医科大学教養部研究年報」23
- 許 卿姫 (1989) 『日・韓両言語における音象徴語の比較対照的研究』  
「日本語教育」68 日本語教育学会
- 許羅莎 (1992) 『感情に関する類義語の研究-怒りを中心に-』 「東洋大学大学院紀要  
第29集」東洋大学大学院文学研究科
- 小林典子 (1992) 『「必ず・確かに・確か・きっと・ぜひ」の意味分析』 『筑波大学留学生センター日  
本語教育論集』7:1-17、筑波大学留学生センター
- 許羅莎 (1993) 『感情に関する類義語の研究-怒り(動詞以外のもの)を中心に-』  
「東洋大学大学院紀要 第30集」東洋大学大学院文学研究科
- 丹野眞智俊 (1996) 『日本語オノマトペの清音と濁音の対比』 『研究論文集』44(2)  
佐賀大学教育学部
- 野間秀樹 (1998) 『最もオノマトペが豊富な言語』 「言語」27(5) 大修館書店
- 俞 暁明 (2005) 『「喜び」を表す擬態語の意味解釈と用法について』  
「北星学園大学文学部北星論集」42(2)
- 李大年 (2007) 『日本少女まんがにおける擬態語(1):意味・形態を中心に』 2007  
「比較社会文か研究」21 九州大学院
- 佐久間司郎 『「の」を介した程度副詞の名詞修飾に関する一考察』 2009  
済州大学大学院

## 【辞典】

- 柴田武 山田進 編 『類語大辞典』 2002 講談社
- 中田祝夫 和田利政 北原保雄 編 『古語大辞典』昭和58 小学館
- 新村 出 編 『広辞苑 第五版』1998 岩波書店
- 日本大辞典刊行会 編 『日本国語大辞典』 昭和48年 小学館
- 久松潜一 佐藤謙三 編 『国語辞典(蔵書版)』 昭和51年 角川書店
- 森岡健二 徳川宗賢 川端善明 中村明 星野晃一 編 『国語辞典』1993年 集英社
- 飛田良文 浅田秀子 編 『現代擬音語擬態語用法辞典』 平成14年 東京堂出版
- 中村明 編 『感情表現辞典』1993年 東京堂出版

### 【参考検索エンジン】

ヤフージャパン、 ライブドア、 グーグルジャパン

### 【出典一覧】

- かちんと  
20120212190842c3b.jpg
- かっと  
jerk-simokitazawa.com/.../かっとなって.jpg
- かっかと  
blog-imgs-21.fc2.com/m/e/n/menep/xhetrngyjhyh...
- かりかり  
knowhow.daiwa-hotcom.com
- カンカン  
http://www.pixiv.net/member\_illust.php?mode=medium&illust\_id=14314004
- きっと  
http://news.livedoor.com/article/image\_detail/6530286/
- けんけん  
http://wiki.livedoor.jp/jyontsuki/d/IF2%A1%A6%A5%A4%A5%C8%A5%B3%A4%C8%A5%B1%A5%F3%A4%C1%A4%E3%A4F3
- つけつけ  
http://www1.sphere.ne.jp/pilehead/osaka/osaka\_word/text/honbuntu.htm
- つけんどん  
http://www.weblio.jp/content/%E3%81%A4%E3%81%A3%E3%81%91%E3%82%93%E3%81%A9%E3%82%93
- ずけずけ  
http://onayamifree.com/threadres/1319942/
- つんと  
http://matome.naver.jp/odai/2128383182791642701/2128391703493502803
- つんけん  
www.sunrise-inc.co.jp/.../04pre.jpg
- ぴりぴり  
f39.aaa.livedoor.jp/.../part1\_24.jpg
- ふいつ  
http://deco.yahoo.co.jp/detail/img/3063221
- ふっと  
orix.buffaloes.co.jp/.../20071005185911.jpg
- ぶりぶり  
Achan.jpg  
atelier-yucky.blog.so-net.ne.jp
- ぶん  
blog.nogizaka46.com/yuuri.saito/2012/04/00423  
ぶんぶん  
www.cute.to/~alice/novels/novels/life/slt04\_1.jpg
- むかむか

[www.lang.nagoya-u.ac.jp/.../muka.jpg](http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/.../muka.jpg)  
<http://www.kinnohoshi.co.jp/shop/info.php?isbn=9784323090351>  
•ムカッ  
<http://livedoor-search.naver.jp/>  
•むしゃくしゃ  
<http://matome.naver.jp/odai/2131526820601336001/2131526917801356303>  
  
•むすっ  
dsc02645.jpg  
mrnyancyu.blog31.fc2.com  
•めらめら  
[www5f.biglobe.ne.jp/~nana-chan/images/img707.jpg](http://www5f.biglobe.ne.jp/~nana-chan/images/img707.jpg)  
•わなわな  
[www.sumaga.net/img/ss/oki2.jpg](http://www.sumaga.net/img/ss/oki2.jpg)

[Abstract]

## Usage and interpretation of mimetic words

-Focusing on expression of anger-

Moon, Gong-Jin

Major of Japanese Education

Graduate School of Education of Jeju National University

Supervised by Professor Lee, Chang-ik

There are lots of mimetic word in japanese language such as korean. In those words, the expressions of human emotion are various too. For those who study japanese language as a foreign language, it is much more difficult to understand and use correctly those japanese mimetic words. This these aimed to help those learners to have a good command of using mimetic words in Japanese.

In many mimetic words, the words that express anger emotion are focused in this thesis. To collect words that express anger, 「現代擬音語擬態語用法辞典」 ([The dictionary of modern onomatopoeia and mimetic words usage]), the special dictionary of japanese onomatopoeia and mimetic words, was referred.

The collected 27 words such as かちん、かつ、かつか、かりかり、かんかん、きつ、けんけん、つけつけ、つん、つんけん、つんつん、びりびり、ふいっ、ふっ、ふつつん、ふりふり、ふん、ふんぶん、むかつ、むかむか、むしゃくしゃ、むすっ、むっ、むつつり、むらむら、めらめら、わなわな were analysed.

First, the meanings of these words were examined to acquire precise expression of anger, then classified grammatical person into three categories (the-first person, third person, both) so that learners become to distinguish the

difference of grammatical person in usage in certain words.

Then after, they were classified into three categories in a point of gender view.

As a result, there could be found only a couple words that were used for ladies.

The last analyse was to compare the degree of anger in words, and ranked form A to E by the degree of anger.

As a result the word of [かっか] was the strongest anger expression of those 27 mimetic words of japanese.

It is still important and preferable to continue to study mimetic and onomatopoeic word deeply in many aspects for foreign learners.

